

MN SET

Release Notes

Software Version 5.60

2024-11-13

日本語版

目次

このリリースについて	3
サポートされているデバイス/アプリ	3
MN SET に含まれるもの	3
HDR アプリ向けに MN SET V5.60 と共に供給される LUT	3
リリース・バージョン 5.60 ソフトウェア	4
既知の制約および問題	4
リリース・バージョン 5.50 ソフトウェア	5
リリース・バージョン 5.42 ソフトウェア	7
リリース・バージョン 5.41 ソフトウェア——限定版	8
リリース・バージョン 5.40 ソフトウェア	9
リリース・バージョン 5.31 ソフトウェア	11
リリース・バージョン 5.30 ソフトウェア	13
リリース・バージョン 5.21 ソフトウェア	15
リリース・バージョン 5.20 ソフトウェア	17
リリース・バージョン 5.12 ソフトウェア	19
リリース・バージョン 5.11 ソフトウェア	19
リリース・バージョン 5.10 ソフトウェア	20
リリース・バージョン 5.00 ソフトウェア	22
リリース・バージョン 4.30 ソフトウェア	23
リリース・バージョン 4.20 ソフトウェア	24

このリリースについて

MN SET ソフトウェアは RIEDEL の MN IP 処理モジュールを様々な構成できるようにします。このソフトウェアはネットワーク・スペース内の個々のモジュールと通信して、フローを設定、監視し、ルーティングを制御します。MN SET はサーバー/クライアント・ソフトウェアとして設計されており、サーバー・ソフトウェアを 1 台の PC にインストールし、複数のクライアント・インスタンスをインターネット・ブラウザ経由でリモートで、またはローカルにサーバー接続することができます。

MN SET は MyRiedel <https://myriedel.riedel.net/en/downloads/> から入手可能です。

サポートされているデバイス / アプリ

プラットフォーム	ソフトウェア・アプリ
MuoN A10	ST2110 ゲートウェイ, バージョン 3.0 以上
MuoN B10	ST2022-6 ゲートウェイ, バージョン 3.0 以上
MuoN B25	JPEG-XS エンコード / デコード, バージョン 1.0 以上
FusioN-3-A10	JPEG-2000 エンコード / デコード, バージョン 1.0 以上
FusioN-3-B10	MN IP マルチビューワー, バージョン 1.0 以上
FusioN-3-B25	HDR, バージョン 1.0 以上
FusioN-6-B10 / FusioN-6-B25	アップ / ダウン / クロス・コンバーター (UDC), バージョン 3.10 以上

MN SET に含まれるもの

- MNIP デバイスのディスカバリー
- 各デバイス用の制御 IP アドレスの設定
- フローの設定
- シンプルなフロー・ルーティング・パネル
- デバイスの位置
- バルク・コンフィギュレーション機能
- 便利なサーチ・フィルターとソート・ツール
- ユーザー・ログイン
- アップグレード管理
- Windows および Linux プラットフォーム, Docker コンテナで利用可能

HDR アプリ向けに MN SET V5.60 と共に供給される LUT

MN SET と共に供給される LUT については『HDR Converter APP User Guide』を参照してください。

全 BBC LUT 用に含まれるバージョン	NBCU LUT 向けに含まれるバージョン
1.7	NBCU 1 V1.1 NBCU 2 V1.0 NBCU 3 V1.1 NBCU 4 V1.0 NBCU 5 V1.0 NBCU 7 V1.0

リリース・バージョン 5.60 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能 / バグ	解説
60	B	部分的なソース論理をルーティングできない。	MN SET バージョン 5.60 より前は、特定のチャンネルの音声送信側または受信側の一部が欠落している論理デバイスを構築する場合、その論理デバイスをルーティングすることができなかった。この問題は解決され、任意の数の音声ストリームを使って論理デバイスを構成し、それらをルーティングできるようになった。

既知の制約および問題

*) MN SET リリース・ノート v5.60 で初 (2024-11-13) : なし。

[2160] ネットワーク上に MN SET の単一インスタンスをインストールすることを推奨。複数の MN SET クライアントがこの MN SET インスタンスに接続して、全デバイスを構成・制御可能。

[2037] MN SET を Linux PC にインストールすると、デバイスの検出中に CPU 使用率が高くなる場合がある。

[2046] Interleaved または Square Division クアッドリングが設定されていて、4 つのリンクの 1 つを選択した場合、そのリンク用のパラメーターが表示される。ただし、単一リンクに戻してもそのリンクのパラメーターは更新されない。

回避策：単一リンクに戻す場合は Link 1 をクリックしてリンクのパラメーターを表示する。

[2045] TCP SYN Flood は、Device Discovery 範囲がローカル・ネットワークのネットマスク範囲内になく（ディスカバリー・パケットはスイッチのアップリンクを介してデフォルト・ゲートウェイに送信される）、Device Discovery 範囲が大きい場合（0 ~ 255 など）に発生する可能性がある。

回避策：ネットワーク上で利用可能なデバイスに応じて Device Discovery 範囲のみを設定する。

[2019] デバイスに静的 IP アドレスを用いて Device → List タブでデバイスの IP アドレスを変更する場合、新しい IP アドレスが PAN B の Device タブに正しく反映されるまでに最大 15 分かかることがある。

[1900] Device → List タブで、バーチャル・デバイスおよびマルチビューアー・デバイスでは Scheme ボタンが使用できない。

[971] Windows 32 ビット用 MN SET ——サポートされていない。MN SET の実行には Mongo DB が必要だが、MN SET 5.10 インストールでは正しくインストールされないため、Windows 32 ビット用のインストール・バージョンは利用できない。

[1510] 複数のエッセンスを含む 2110 バーチャル・デバイスを作成できない。

[1587] MV 1.0 ——コンフィギュレーションのバックアップ/リストア後、論理割り当てへのフローが更新されるまでに最大 30 分かかる場合がある。

[7] [Alarms] 最初のアラーム・ソースとして TSL アラーム・ソースを作成できない：マルチビューアーで TSL アラーム・ソースを作成する際、TSL のない別のアラーム・ソースがまだ作成されていない場合、このアラーム・ソースは機能しない。

回避策：まず TSL を使わずにアラーム・ソースを作成し、次に TSL を用いてアラーム・ソースを作成する。

[2048] J2000 アプリでは Flows Reset to Factory をクリックしても、エンコーダーとデコーダーの両方について、デバイスの工場出荷時のデフォルトのネットワーク・パラメーターをデバイスの全フロー設定に適用できない。

回避策：デバイスの REST API を使用して `{Management IP address}/emsfp/node/v1/self/system/config_reset` でフローをリセットする。

リリース・バージョン 5.50 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能 / バグ	解説
62	B	MNSET がログイン・ページをロードできない。	ブラウザのキャッシュの問題のために、アップグレード後に MN SET に接続するとログイン・ページがロードされない場合がある。MN SET がブラウザのキャッシュ・ポリシーを正しく設定するようになったことで、この問題は解決された。
4946 / 34	F	NMOS 内でデバイス・チャンネルを無効にできる。	NMOS タブでは各デバイスのチャンネルを NMOS レジストリで有効または無効にして、そのチャンネルの全フローをルーティングに使用できるかどうかを指定できる。
5829 / 55	F	新しい UHD ゲートウェイ・デバイスはシリアル番号を表示できる。	デバイスが工場でシリアル番号を使用してプログラムされている場合、Monitor → Device Status → Serial Number 欄にデバイスのシリアル番号が表示される。Unavailable はシリアル番号が工場出荷時にデバイスにプログラムされていないことを示す。
33	F	RGB 4:4:4 12 ビット SDI 信号のエンカプレーションのサポート。	SMPTE ST 2110 SDI UHD ゲートウェイ・アプリ v4.7.1 では、RGB 4:4:4 10 ビット SDI 信号と 12 ビット SDI 信号の両方のエンカプレーションをサポートするようになった。信号のビデオ・ビット深度が PAN B のモニター・セクションに追加され、エンカプレートされた信号の現在のビデオ・ビット深度が表示される。
40	I	BBC から入手可能な HDR 3D LUT ファイルがバージョン 1.6 からバージョン 1.7 に更新された。	MN SET には HDR アプリを実行しているデバイスにアップロード可能な BBC 3D LUT のバージョン 1.7 が含まれるようになった。デバイスに以前にインストールされていた BBC バージョン 1.6 HDR 3D LUT ファイルは、必要に応じてクリアし、MN SET で手動でバージョン 1.7 に更新する必要がある。
42	I	SDI 出力設定を一括編集できるようになった。	PAN A で複数デバイスが選択されている場合、PAN B の SDI タブで一括変更を行って複数デバイスの信号消失モード時の SDI 出力などの設定を同時に構成できるようになった。
4	I	依存関係と JRE を最新バージョンに更新して脆弱性を修正。	セキュリティの脆弱性に対処するためにアプリケーションで使用する Tomcat のバージョンが更新された。
24	B	Auto Src IP のステータスが正しくない。	PAN A のデバイス間を移動するときに、信号の自動ソース IP 機能で正しい値が表示されないことがあった。この問題は修正され、Auto Source IP チェックボックスに現在のデバイスの IP アドレス値が正確に反映されるようになった。
28	B	PTP モードは MN SET で使用できるが、デバイスではサポートされていない。	ユニキャスト PTP モードは非推奨となり、MN SET ユーザー・インターフェイスのオプションとして選択できなくなった。デバイスがこのモードを使うように以前に構成されている場合は代わりにハイブリッド・モードまたはマルチキャスト・モードのいずれかを選択することを推奨。
16	B	バックアップの復元時のエラーが明確になった。	バックアップを復元し、複数デバイスをバックアップの値で正常に再プログラムできなかった場合、大きなエラー・ポップアップが表示される。復元操作の結果がより明確に表示されるようになり、この処理が改善された。
3	B	不適切な Fusion 6B のチャンネル表示の MNSET。	ゲートウェイ・デバイスが PAN B の信号セクションに間違った数のチャンネルを表示する可能性がある状態があった。この状態は修正された。PAN B のモニター・セクションからの更新操作も問題を解決するのに使用できることに注意。
5 / 17	B	カラー・コレクションおよびマルチビューアー・パネルに現在の IP アドレスではなく静的 IP アドレスを表示。	マルチビューアー・パネルとカラー・コレクション・パネルの IP アドレスには、設定された静的アドレスではなく、現在のアドレスが表示されるようになった。以前は、これにより、デバイスが DHCP を使用しているときに間違った IP アドレスが表示されることがあった。
983 / 8 / 2275	B	Linux インストーラーが MongoDB をインストールしない。	MongoDB 5.0 が Ubuntu 23 および 24 システムに正しくインストールされないという問題があった。この問題は現在修正された。これらのシステムでは代わりに MongoDB 7.0 がインストールされるようになった。
25	B	間違ったビットレートが表示された。	デバイスの動作ビット・レート (整数対小数) がユーザー・インターフェイスで適切に更新されない場合がある問題があった。この問題は修正され、値がデバイスに設定されている値と一致するようになった。
32	B	エンカプレーション受信トラフィック・エラー。	JPEG-XS バージョン 2.1 アプリでの通常の動作中に、まれにエラーが誤って表示される場合がある問題があった。このエラー・メッセージが不適切に表示されることはなくなった。

番号	分類	機能 / バグ	解説
36	B	REST デバイスのリストにすべて同じ IP アドレスが表示される。	ユーザー・インターフェースの REST セクションの Device IP Address 欄には、検出されたデバイスに RESTful コマンドを送信するのに使用できる IP アドレスのポップアップ提案がある。 以前は IP アドレスのリストはデバイスの静的に構成された IP アドレスのみに基づいていた。ここで、デバイスが DHCP モードを使用するように構成されている場合、リストには静的な IP アドレスではなく現在の IP アドレスが表示される。
38	B	デバイスが DHCP を使用している場合、デバイス・リストからプライマリ / セカンダリ IP を編集できないようにする。	プライマリ IP とセカンダリ IP はデバイス・リストで直接編集できるが、これには 2 つの問題があった。セカンダリ IP への変更は保持されず、デバイスが DHCP モードの場合、IP の編集が反映されるかどうかが明確でなかった。現在の IP アドレスではなく、静的 IP アドレスのみを変更する。動作は更新され、セカンダリ IP への変更が永続化され、デバイスが DHCP モードの場合はいずれの IP も編集できなくなった。
54	B	5 台以上のデバイスでデエンカプスレーション音声チャンネル数と音声パケット時間を一括変更すると、アップデートが完了しない。	UHD ゲートウェイのデエンカプスレーションの場合、5 台以上のデバイスで音声チャンネル数と音声パケット時間を一括変更すると、MN SET が全デバイスへのアップデートのプッシュを完了できなくなる。これは修正された。
57	I	MN SET デエンカプスレーションの TCS および Colorimetry 設定をデバイスのフロー設定に追加	伝達特性および測色パラメーターをサポートする IP ゲートウェイ・レシーバーを、PAN B → Signals → Flows で設定できるようになった。

リリース・バージョン 5.42 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能 / バグ	解説
4696 2256	F	デエンカプセレーターの新しい VPID ソース設定には、SDI ストリームで使用する VPID データのソースが三つ用意される。	以下の VPID オプションが利用可能になった： <ul style="list-style-type: none"> • Regenerated：デフォルト設定。SDI データで送信される VPID は SDP から生成される。このオプションは V4.6.1 より前のゲートウェイ・アプリ用のレガシー動作。 • Source：SDI データで送信される VPID はソース・ビデオに関連付けられた ST2110-40 フロー内の PID から生成される。 • Override：SDI データで送信される VPID はユーザーが設定した値に由来する。詳しくはユーザー・ガイド参照。
2249	B	Device タブ を 使用 する 際、Fractional/Integer Video Bit Rate パラメーターが機能しない。	JPEG-XS APP を実行する際、フラクショナル・ビデオ信号で Device → Ports の Bit Rate Fractional/Integer 設定を Integer に変更しても効果がなかった。
2263	B	SDI-JPEG-XS の Audio Mapping ペインにオーディオ・フローがなかった。	JPEG-XS アプリの音声チャンネルのオーディオ・マッピングは利用できなかった。
2204	B	UDC/DC/UC デバイスに到達できないのにステータスが変わらなかった。	UDC/DC/UC デバイスがネットワーク障害などでオフラインになると、MN SET のステータスはデバイスがまだ利用可能であると誤って表示された。現在、UDC/DC/UC デバイスは正確になっている。
1968	B	[Ember + Bess] Ember+ ポート設定後にデバイスの再起動を待たないように変更した。	Ember+ ポート構成が適用された後、デバイスが再起動するのを待たないように動作が変更された。これは、v5.31 で実装された動作から変更された：Ember+ ポート設定後、MN SET はデバイスの再起動を待ち、その間はデバイスの設定をブロックする。
2181	I	UDC の場合：パケット間隔時間が有用であるためには改善が必要。	UDC/DC/UC デバイスの場合、パケット間隔時間で監視する個々のフローを選択できるようになった。
2213	I	ソース IP をインターフェイス IP に強制的に一致させる MN SET チェックボックス。	MN SET のデバイスの Signal → Flow 設定で、 Source IP チェックボックスのパラメーターが Auto Set Source IP にラベル変更された。このオプションは、ソース / センダーの IP アドレスをデバイスの管理 IP アドレスに設定する。
2179	B	マルチビューワーのモザイクを UHD フォーマットに設定できない。	マルチビューワー・デバイスの UHD フォーマットが利用可能になった。 Signals → Flows で Video Format を設定する。
2209	I	Vendor および Description 欄が空のまままだ HDR LUT のアップロードが失敗する。	HDR デバイス用の LUT をアップロードする際、 Vendor および Description 情報欄を空のままにできるようになった。
2210	I	JPEG-XS と FusioN-6-B の組み合わせ：第 4 ポートの SFP の host_pinout と Black Burst 設定を削除する必要がある。	JPEG-XS アプリを実行している FusioN-6-B は、 Device → Ports にあるように、このアプリに適用されないポート設定を表示しなくなった。
2203	B	UC/DC/UDC がフロー・タグの追加に失敗する。	Device → List → Signals テーブルで UC/DC/UDC デバイスの Flow Tag を設定すると、その値が保持されるようになった。
2239	B	UDC、INPUT フローの場合： Patch SDP および Patch Bulk SFP ボタンは常に有効にする必要がある。	UDC デバイスの Signals → Flows → OUTPUT → Video で Conversion Bypass が有効な場合、 INPUT → IP の Patch SDP および Patch Bulk SFP ボタンは常に有効になるようになった。
2200	B	HDR LUT のアップロードがリストに自動的に表示されない。	HDR デバイスで新しい LUT のアップロードに成功した場合、新しい LUT を表示するためにリストを更新する必要はなくなった。
2253	B	FusioN-6-B でデバイスが空白のマッピングを報告すると、オーディオ・マッピング・エラーが発生する。	FusioN-6-B デバイスのオーディオ・マッピングで、クロスポイントが正しく表示されるようになった。
2232	I	メディア・ポート・ラベルの明確化。	Device → Ports で、高速メディア・ポートのラベルが Media port Primary と Media port Secondary に統一された。

リリース・バージョン 5.41 ソフトウェア——限定版

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能 / バグ	解説
2250	B	顧客が作成したプリセットの表示は 20 個まで.	ネットワーク接続されたデバイスを検索するために検出範囲 (Discovery Range) を作成してプリセットとして保存すると、ユーザー・インターフェイスにプリセット 22 以上が表示されるようになった.

リリース・バージョン 5.40 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能 / バグ	解説
—	I	JPEG-XS V3 のサポート.	JPEG-XS V3 では、V2 と比較してアプリの設定方法が変更された。
—	F	UDC/DC/UC アプリのサポート.	アップ / ダウン / クロス変換アプリのサポート.
1746	B	「View only」ユーザー・パーミッションが正しく適用されない.	「View only」権限を持つユーザーはオーディオ・ルーティングを編集できる。
1697	B	Array タブのフィルタリングを修正.	Array タブで、ID または Switch コラムのテキスト・フィルタリングを使用する場合、表示される結果は完全なものになった。
2125	I	設定時間を短縮するための Auto Set Source IP.	設定すると、セnderのエンカプスレーター (または出力) ストリームの IP アドレスに、デバイスの物理ポートの IP アドレス (管理 IP アドレス) を使用する。
2073	I	カラーバー出力を設定する.	出力フロー設定では、UDC などのこの機能をサポートするアプリに対して、カラーバー・オプションが利用可能。
1970	I	HDR アプリ：デバイスへの LUT の一括アップロード.	LUT を、選択した 1 つ以上の HDR デバイスに一度にアップロード可能。
1898	I	HDR アプリ：プリプロセッシング / ポストプロセッシングでのカラーバーの設定.	モニター・モードでは、 Color override オプションによって、受信したビデオの代わりに、プリプロセッシング INPUT でのカラー・ピッカーによるソリッド・テスト・カラー、またはポストプロセッシング OUTPUT でのカラーバーを有効できる。
1786	I	FusioN-6-B：ブラックバーストのサポート.	この機能がライセンスされている場合、ポート 4 がブラックバースト出力を提供できるようになった。
1016	I	UDC：Ember+ のパラメーターをモニター可能.	モニター・モードの「Device」で、Ember+ のパラメーターをモニターできる。
969 / 968	I	UDC：色補正 (ProcAMP).	UDC アプリの場合、MN SET には Color Correction タブがあり、Brightness, Contrast, Saturation, Hue, RGB Gains, RGB Gamma, RGB Blacks を調整できる。UDC Detail enhancer と Temporal noise reduction の処理パラメーターも利用できる。
2051	B	ユーザー・インターフェイスに関連性のないコンテンツが表示される.	JPEG-XS ：PAN B → Signals タブ → Reference タブで、フレーム同期がサポートされていないため、 Frame Sync not licensed は表示されなくなった。 マルチビューワー ：PAN B → Signals → Inputs で、Reference タブのパラメーターは表示されなくなった。
1837	B	フローをリセットした後、JPEG-XS エンコーダーにフローを設定できない.	JPEG-XS エンコーダーのフローをリセットしても、デバイスを設定できるようになった。
1768	B	Delete ボタンの動作が修正された.	PAN A の List タブで 1 つ以上の選択したデバイスを削除すると Delete ボタンは無効になり、PAN B は空になる。
1751	I	ユーザー管理の制御が改善された.	ユーザー管理では、ユーザーに割り当て可能な権限タイプが細かくなった。
1735	B	無効なラベル変更の成功メッセージ.	フローのラベル名を 14 文字 (最大許容文字数) より長い文字列で変更する場合、失敗メッセージが表示されるようになった。
1729	B	信号リスト・フィルターは全ユーザーについて保持される.	タブを変更して戻ったりログアウトしてログインし直しても、信号リスト・フィルターが保持されるようになった。
1557	B	プリセットによるディスカバリー [検出] がより確実になった.	ディスカバリー・プリセットを選択した後、Apply をクリックしてもデバイスが発見されないことがあった。
1766	B	ログ・サイズの設定が無効な値をブロックするようになった.	Admin → About タブでログ・サイズの制限に負の数値を設定すると、次のエラー・メッセージが表示されることがあった：WARNING: Size of log folder reached or got over 80% of the maximum size [警告：ログ・フォルダのサイズが最大サイズの 80% に達したが、超えた。]
1756	B	J2000：サポートされていない UHD 解像度が表示される.	PAN B の Signals → Flows → INPUT タブで、J2000 エンコーダーが、サポートしていない UHD 解像度を Video Format ドロップダウンに選択可能として表示していた。
861	B	SNMP エージェントが単一のデバイス・タイプにのみ適用される.	異なるタイプのデバイスで複数のアレーを作成する場合、SNMP トラップを生成するのに使用できるのは最初のアレーだけ。
1578	B	MV v1.0：無効なデータがアラーム・ソースのリストを破損することがなくなった.	無効なデータで TSL アラーム・ソースを作成しようとしても、アラーム・ソースのリストが破損することがなくなった。

番号	分類	機能 / バグ	解説
1483	B	バーチャル・デバイスの RTP ペイロードのデフォルト値が間違っている。	バーチャル・デバイスにはデフォルトの RTP ペイロード値として 0.0.0.0 が割り当てられていた。
1739	B	Routing-Edit チェックボックスは Operator チェックボックスの選択を解除しても自動的に解除されない。	Users Management → Define Roles で Operator オプションを交互に切り替えても、Routing-Edit のパーミッションが一緒に切り替わらなかった。
1736	B	複数のバーチャル・デバイスの削除に失敗していた。	List タブで Delete をクリックし、選んだ 2 つ以上のバーチャル・デバイスを削除すると、選択したバーチャル・デバイスがすべて Device List および MN SET データベースから削除されるようになった。
1567	B	J2000 : MN SET REST クライアントと NAPI クライアントが正常にプロファイルを配置できるようになった。	GET を行うときに GET self/diag/j2k/uuid の PUT を正常に行えるようになった。
906	B	JPEG-XS : FusioN 3 の PORT-3 の host_pinout の値が MN SET で表示されない。	JPEG-XS アプリを搭載した FusioN 3 では、Device → Ports にあるポート #3 の設定情報が利用できるようになった。
1813	B	PAN B ルーティング：別のページに移動して戻るときにビデオ・フォーマットが非表示になる。	SMPTE ST 2110 のデエンカプスレーション・デバイスのフローが、別のページに移動して戻ると、PAN B の Signal → Flows タブから消える。
1731	B	Logicals タブでソースを削除すると Signals タブが消える。	Device → Logicals → Sources タブでソースを削除しても Signals タブは表示されなくなった。
1803	B	ユーザー管理において重複したユーザー名がブロックされなかった。	既存のユーザー名でユーザーを作成しようとするとブロックされるようになった。
1777	B	マルチビューワー：ソース名がすべて消えることがあった。	デスティネーション・フローを編集してからモザイク・フローを選択すると、すべてのソース名が消えることがあった。
1535	B	[MV-Routing] フローをリセットするとソース名が非表示になる。	PAN B がテンプレート・モードにあるとき、Destination パネルで Mon(s) を選択し、ルーティングするソースを選択する。ルーティング後にフローの設定が正しく更新されているか確認する。PAN A で、Destination パネルでルーティングされた PIP を選択し、フローをリセットする（プライマリとセカンダリの両方）。編集モードに変更すると、以前にルーティングに成功した PIP のソース名が非表示になる。
1532	B	[論理ルーティング] 正常にルーティングされた後、フローのステータスがユーザー・インターフェイスで更新されなかった。	Enable Flow 欄はフローのステータスを正しく報告するようになった。
1173	B	[アレー] MN SET で削除された一部のアレーが MIB ファイルに残っていた。	現在ではアレーが削除されると MIB ファイル内でその痕跡を見つけることはできない。
1816	B	[ユーザー管理] ビューを持つユーザーが論理ソースを作成すると、エラー・メッセージが表示されるようになった。	ビューだけを持つユーザーが論理ソースを作成しようとすると、「access is denied」というメッセージが表示されるようになった。
1525	B	他のデバイスを選択してもフロー・エラーのメッセージが残る。	PAN B → Signals → Flows でフローに無効な名前を付けると、別のデバイスを選択してもエラー・メッセージが表示されていた。
1498	B	[Logical - Destination タブ] ユーザーが論理デスティネーション・タグを設定すると、フロー・コンフィグがデバイスに配置される。	論理ソースを論理デスティネーションにルーティングする場合、MN SET はデータベース上のデータを更新するだけで、デバイスにコマンドを適用しない。
1317	B	[Routing タブ → Multiselection] 「Select all」アイコンは他のタブに切り替えたときにデフォルトにリセットする必要がある。	Destination タブ上で Device → Routing → Video で Multiselection をクリックし、「Select all」アイコンをクリックする。この状態で例えば Audio タブに移動すると、フローが選択されていないため「Select all」アイコンがリセットされる。以前はフローが選択されていないにもかかわらず「Select all」アイコンは全フローが選択されていると表示していた。

リリース・バージョン 5.31 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能 / バグ	解説
2030	F	ゲートウェイ・バージョン 4.4.0 のデエンカプスレーション・チャンネル用の新しい 12 ビット, 4:4:4, RGB または YCbCr ピクセル・データ構造のサポート.	MN SET はこのデータ構造をサポートする新しいフォーマットおよび解像度に対応するようになった.
1937	I	パッチはボタンを 2 つ持つようになった (フロー毎, レシーバー毎).	新たに Patch Receiver/Sender ボタンが Flows タブに追加され, ストリームのプライマリおよびセカンダリ・フローの両方に組み合わせた SDP をパッチできるようになった (センターまたはレシーバー).
1929	B	「run」プログラムに 5 分以上かかることがある.	デバイス上で実行するファームウェアを変更する場合, アクションが実行されるまでに 5 分以上かかることがある.
1814	B	Reference タブで uSecond 単位値を変更すると, いくつかのタブが非表示になる.	Reference タブで負の uSecond 単位値を設定すると一部のタブが表示されなくなるというユーザー・インターフェイスの不具合はなくなった.
1811	B	バーチャル・デバイスのビデオ・フローを「physical」デバイスのビデオ・フローにルーティングすると, ビデオ・フォーマットが自動的に設定されないため, 品質の悪いビデオ出力になっていた.	現在ではデエンカプスレーションのビデオ・フォーマットはソースに合わせて自動的に調整される.
2025	B	新しいログが返されたときに, Device Syslogs セクションで古いログが削除されない.	ログが正しくローテーションされるようになった.
2020	B	FusioN 3 10G で RS-FEC が利用可能になった.	ユーザー・インターフェイスが修正され, FusioN 3 10G の RS-FEC オプションがなくなった.
1968	B	Ember+ ポート設定後にデバイスが再起動するまでの遅延がない.	MN SET は, Ember+ ポートの設定後, デバイスの再起動を待機し, その間にデバイスを設定することをブロックする.
2013	B	デバイス変更時に誤ったフローが選択される.	デバイス間を変更すると, フローのドロップダウンに別のデバイスの内容が表示されるという Flow タブのユーザー・インターフェイスの問題が修正された.
1947	B	ソート・インデックスが間違っていた.	アレーの全コラムに対するソートを改善した.
2027	B	利用できないファームウェア・スロットを選択した場合, Start Upgrade ボタンはグレーアウトされるべき.	現在, 利用できないファームウェア・スロットを選択すると, Start Upgrade ボタンは利用できなくなる.
1979	B	無効な LLDP フレーム・レート値を適用する場合, MN SET はエラー・メッセージを返すべき.	無効な LLDP フレーム・レート値をデバイスに適用すると, MN SET はエラー・メッセージを返すようになった.
1969	B	無効なクリーン・スイッチ設定が「successful」になっている.	無効なクリーン・スイッチ・リクエストにはエラー・メッセージを返すようになった.
1925	B	MN SET はレジストリのアドレスに無効な値を適用することを防ぐべき.	NMOS デバイスでは, 無効な IP アドレスが NMOS レジストリでブロックされるようになった.
1819	B	アラーム・ソースが無効な TSL イベント画面 ID 値を許可している.	マルチビューワーを用いる場合, マルチビューワーのアラーム・ソースは, 無効な TSL イベント画面 ID 値を受け付けなくなった.
1808	B	[SDI タブ] 他のタブに移動して戻っても, 選択した値が維持されない.	SDI タブで変更を適用せずに設定を変更すると, 別のタブに移動して戻ったときに元の設定が表示される.
1832	B	[Text Fields] PAN B で任意のソース・タイプを適用すると, モザイク・フローが自動選択される.	マルチビューワーでは, Device → Multiviewers → Text Fields タブで入力フローを選択すると, PAN B に選択した入力フローの詳細が表示される.

番号	分類	機能 / バグ	解説
1827	B	作成したオーディオ・マッピング・テンプレートは、テンプレートが元々作成されたデバイスと同じファミリーに属するデバイスでのみ使用可能（例：Muon-B, FusioN-3-B および FusioN-6-B —または— Muon-A）。	今は、作成したオーディオ・マッピング・テンプレートを異なるデバイスに適用できる。
2018	B	信号フローが1つの 2022-6 パーチャル・デバイスを作成する場合、 Enable Flow 欄がない。	1つの信号フローで 2022-6 パーチャル・デバイスを作成する際に Enable Flow 欄が使用できるようになった。
2014	B	信号フローが1つの ASI パーチャル・デバイスを作成すると、PAN B 設定が空になる。	1つの信号フローで ASI パーチャル・デバイスを作成する際に PAN B で Configure および Signals タブが使用できるようになった。
2024	B	ブラックバースト用の SFP コネクタ・アイコンが、チェックボックスが有効になっているのに表示されない。	MN-FusioN-6-B-APP-25-2110-SDI-2R6T-E でブラックバーストが有効になっている場合、PAN B の Device → Port タブで、FusioN 6 のグラフィックに SFP コネクタのアイコンが表示されるようになった。
1997 / 1899 / 1075 / 1486 / 1752	B	ユーザー・インターフェイスの最適化。	その他のユーザー・インターフェイスが改善された。
1879	B	DNS 設定欄は読み取り専用のはずである。	PAN B の DNS タブで、 Server address および Domain Name のパラメーターは設定できなくなった。
2065	I	FEC 変更でコミットが行われなかった。	メディア・ポートで FEC を適用 / 無効化する場合、新しいワークフローでは、デバイスが再起動または電源入れ直しされた後も設定が維持されるように、変更を永続化できる。
2070	B	フロー名、IP、チャンネル数データの破損とリスト・ビューの組み合わせで、特定のオンライン・デバイスが表示されなくなった。	ゲートウェイ・デバイスのフロー名、IP、チャンネル・カウント情報が破損する（例えばフロー名 Video が 24.7 になる）。この問題をトラブルシューティングする場合、デバイスをリセットすると、デバイスを検出できなくなるが、デバイスに ping を送信することはできる。

リリース・バージョン 5.30 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)


番号	分類	機能 / バグ	解説
—	F	HDR のサポート.	HDR アプリ V1.0 が MN SET V5.30 でサポートされた.
1876	F	MN SET のバックアップとリストア——後方互換性の確保.	MN SET のバックアップとリストア機能はバージョン 5.30 と 5.2x の間で正しく機能する. 5.2x で作成されたバックアップを 5.30 でリストアでき, 5.30 で作成したバックアップを 5.2x でリストアでき, 5.30 で作成したバックアップを 5.30 でリストアできる.
1858	F	SDP ファイルによるバーチャル・デバイスの設定が可能に.	ST2110 のバーチャル・デバイスの宣言と設定は, 標準デバイスとの一貫性を維持し, 簡素化, 高速化するために SDP ファイルの使用をサポートする.
1838	F	Docker カスタム・スクリプトの廃止.	Docker コンテナには Docker コンテナを起動・停止するためのシェル・スクリプトがいくつか配布されている.
1793	F	冗長管理インターフェイス.	どちらかまたは両方の管理インターフェイスが到達可能な場合, デバイスはオンラインであると表示する.
1695, 1696, 1625	F	HDR アプリをサポート: • 3D LUT リスト, 変換, デバイスへのアップロード. • 3D LUT アクティベーション.	HDR アプリを実行しているデバイスに LUT をアップロード可能にする. アップロードされた LUT が HDR アプリを実行しているデバイス上で有効化されることを許可する. 詳細は HDR Converter アプリのユーザー・ガイド参照.
1626/ 1627	F	HDR アプリを Ember+ または NMOS H から設定できるようにする.	現在の HDR Ember/NMOS 設定を行い, 表示することが可能.
1371	F	EB82SOC1 (システムオンチップ) のサポート.	EB82SOC1 (OEM Embrionix 製品) ハードウェアを MN SET で検出し, 設定できるようになった.
2003	I	Firefox と Internet Explorer はサポートされなくなった.	MN SET バージョン 5.30 以降, Microsoft Edge と Google Chrome の最新バージョンが MN SET で使用できるサポート対象ブラウザである.
2008	B	[logs] Restful ログが空である.	MN SET を実行している PC で見つかったログが空だった: Microsoft Windows : C:\Program Files\Riedel MN SET\logs Linux : /opt/mnset/logs
1992	B	[FusioN-6] ファームウェア・バージョン 3.6 を実行しているデバイスが SOC として検出される.	FusioN-6 バージョン 3.6 ゲートウェイ・アプリは MN SET で正しく識別されるようになった.
1835	B	デバイスの検出に失敗する.	まれに, 既存のデバイスに新しいアプリをロードした後, このデバイスがいつまでも「being discovered」と表示され, 「online」ステータスにならないことがあった.
1818	B	API 検証に失敗した場合に MN SET が成功を報告する.	PAN B でパラメーターを設定する際に Update をクリックして変更を適用すると, MN SET はパラメーターの更新が成功したと表示するが, 実際には変更が適用されていないことがある.
1495	B	マルチビューワーのモニターに 0 から 15 までの番号が付けられる.	モニターとモニターのソースの識別子が異なっていた. 割り当てのために, PIP (またはモニター) は MON1 から MON16 まで識別され, 出力モザイクで使用されるデフォルトの識別子は CAM0 から CAM15 である. 現在, モニター・デスティネーションには 1 から 16 までの番号が付けられている.
1821	B	[MV] マルチビューワーが DHCP から IP アドレスを受信すると, レイアウト・リストが空になる.	マルチビューワーが DHCP サーバーから IP アドレスを受信したときに, マルチビューワーが検出されなかった.
1594	B	[MV-Routing] 論理ソースを削除した後, モニターを任意のソースにルーティングできない.	マルチビューワーのモニターに論理ソースをルーティングしているときに, その論理ソースを削除すると, そのモニターに別の論理ソースをルーティングできない.
1304	B	[Operator user - Routing] ルーティングの成功後, ソース・フローが表示されない.	ソースとデスティネーション間でルートを作成した後, デスティネーションにソース名が表示されない.
2001	B	1080i フォーマットが, 2022-6 アプリで 1080psf と報告される.	1080i50/59 ソースを 2022-6 ソースで使用すると, MN SET で 1080PsF として報告される.
1965	B	ログを詳しくなるように設定すると, restful.log がデバッグ用に設定されるべき.	restful.log にデバッグの詳細が記録されるようになった.
1836	B	MV ファームウェアの実行が「失敗」する.	マルチビューワー・アプリをロードする際 (Upgrade タブ, アプリの選択, 実行), アプリのアクティベーションに時間がかかるため, MNSET がエラー・メッセージを返す.

番号	分類	機能 / バグ	解説
1834	B	テレメトリ / デバイスからデータを読み取れない。	Rest タブで、デバイス / テレメトリに表示されるパラメーターが正確でない。
1828	B	Windows では MN SET コンテナにアクセスできない。	Windows では、インストール直後に MN SET コンテナにアクセスできない。
1826	B	MuoN A エンカプスレーターのフローで、ステレオ・オーディオ・マッピングのテンプレートが適用されなかった。	ステレオ・オーディオ・マッピングのテンプレートが、Muon-A センダー（エンカプスレーター）デバイスで不良だった。
1825	B	オーディオ出力フローの JPEG 2000 デコーダー・デバイスのオーディオ・パケット・タイム欄。	JPEG 2000 デコーダー・アプリを実行すると、MN SET のユーザー・インターフェイスでオーディオ・パケット・タイム・パラメーターが 2 回表示された。
1810	B	[Virtual device - Flows タブ] デバイスが受け付けた値が無効。また、警告 / メッセージが正しく表示されなかった。	バーチャル・デバイスのフローを設定する際、入力データは検証されるが強制されないため、IP アドレスの無効な値は最小限のエラー報告で受け入れられる。
1743	B	ライセンスなしで UHD を設定しようとすると不正なエラーが発生する。	UHD ライセンスなしで UHD 信号を設定しようとすると、役に立たない一般的エラー・メッセージが表示される。現在は Feature not licensed メッセージが表示される。
1709	B	Logs パネルが空である。	Logs パネルが機能し、アラーム情報が表示されるようになった。
1682	B	[MV-Layout] 新しいレイアウトを保存しようとすると、レイアウト上の割り当てが一時的に非表示になる。	この動作は、前のレイアウトに新しいレイアウトを保存し、そのレイアウトに割り当てが含まれている場合にのみ表示される。
1681	B	デバイスの設定に失敗した場合はエラー・メッセージが返されるべきである。	Signals → Reference タブで Frame Sync を有効にすると、フレーム同期を適用できない場合でも偽の成功メッセージが表示される。
1670	B	[Ports タブ] 2110 4.0 デバイスの Port タブを更新するときのメッセージを分かり易く。	一度に複数のパラメーターを更新する場合、メッセージは順次表示される。
1635	B	[JPEG-XS] [Clean_switch] フローがデコーダー上で JPEG-XS として設定されている場合、Clean_switch はまだ利用可能である。	フローが JPEG-XS として設定されている場合、クリーン・スイッチのオプションはグレイアウトされた。
1547	B	[Signal List] Sort/search with Status が正しく動作しない。	PAN A の Signals タブのステータスでの検索 / ソートが正しい結果を表示するようになった。
1492	B	MN SET の MV テンプレートは、サードパーティ・ツールを使って別のテンプレートを読み込んだ場合は更新されない。	マルチビューワー・テンプレートを他社製ツールで読み込んでもすぐには更新されない。MN SET において、MN SET 以外の方法またはツールを使ってマルチビューワー・テンプレートを選んだ場合、MN SET はこの変更をリアルタイムに反映しない。例えば MN SET REST API インターフェイスを用いて現在のテンプレートを変更する場合、インターフェイスは定期的にしか更新されないため、この変更は遅れて反映される。
1211	B	[Pan A Signals] JPEG-2000 エッセンスでフィルタリングできない。	JPEG-2000 デバイスで作業する際、PAN A の信号リストで「JPEG-2000」で信号をフィルタリングして正しい結果が得られるようになった。
1794	B	[2110 4K] ビデオ・フォーマットを正常に更新したときにエラー・メッセージが返される。	PAN B の Signals → Flows で Video format を変更すると、変更はデバイスに正しく適用されるが、次のような誤ったエラー・メッセージが表示された： Server internal error 。
1653	B	[Duplicate UI] [Virtual Device] ユーザーがバーチャル・デバイス上で「Monitor」に切り替えたときにユーザー・インターフェイスが重複する。	バーチャル・デバイス用の PAN B が空になっている。これは修正された。
1337	B	[Warning] MN SET サービスを再起動すると警告メッセージが表示される。	MN SET サービスの再起動後、サイド・メニューで設定した警告が無効になっていた。
1107	B	[MN SET] RESTful API の制御設定のリセットを適用する必要がある。	Admin ページで Reset をクリックしても実際にはディスカバリー範囲がデフォルトにクリアされなかった。今は Submit をクリックする必要がなくなった。

リリース・バージョン 5.21 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	内容	機能 / バグ	機能
1221	I	ディスカバリーに時間がかかる。	ディスカバリー [検出] 範囲が設定されると、新しいプログレス・バーがネットワーク上のデバイスをスキャンした IP アドレスのパーセンテージを示し、別のプログレス・バーが現在 MN SET で設定する準備ができていない検出されたデバイスのパーセンテージを示す。 Device → List の各デバイスの Status LED は検出ステータスに応じて変化する： 灰 ：ネットワーク上でデバイスが検出された。 白 ：デバイスは初期化中で、MN SET がパラメーターを読み取っている。 緑 ：デバイスは現在 MN SET で設定する準備ができています。
1745	I	新しいカラー・スキーム。	MN SET のブランディングは Riedel スタイルをより反映するように更新された。
1781	I	ディスカバリー範囲を外部コンフィグ・ファイルから設定できるようになった。	MN SET が実行または再起動されると、 <code>/mnt/mnset/discovery.txt</code> ファイルを探して、デフォルトのディスカバリー範囲を設定する。 <code>discovery.txt</code> のフォーマット：各行は有効な IP アドレス範囲であり、例えば次のような形式： <code>192.168.1.1-100</code> <code>192.168.1.101-254</code>
1076	I	Syslog は MN SET に統合されるべき。	追加のヘルス・モニタリング値が MN SET で報告されるようになった。
1710	I	デバッグのヘルプ。	セットアップ・ログは .zip ファイルで入手可能。
1505	I	バーチャル・デバイスから論理ソースを作成できない。	バーチャル・デバイスから論理ソースを作成できなかった。
1601	I	フロー・タイプが変更された場合、フロー・リストの更新に時間がかかりすぎる。	フロー・タイプを変更すると、論理ソース・リストの更新に時間がかかる。
1500	I	PAN B のコンテンツは、論理ソース情報の代わりにデバイス情報を表示する。	PAN A で論理ソースが選択されると、PAN B は選択された論理ソースの詳細を表示するようになった。
1711	I	マルチビューワーのルーティング時間が大幅に改善された。	マルチビューワーで論理ソースをモニタにルーティングする際のルーティング時間が短縮された。
1591	I	MN SET はフィルタリングとソートの設定を記憶する。	MN SET を終了して再ログインすると、異なるテーブルのフィルタリングとソートがリセットされた。
1560	I	PTP ドメインおよび VLAN ID 向けデータ検証が欠落。	ソース・ドメイン番号と VLAN ID の入力検証を追加。
1101	I	グラフィカル・ユーザー・インターフェイスに十分なパラメーターが表示されない。	一度に多くのパラメーターを表示するようにグラフィカル・ユーザー・インターフェイスが修正された。
1669	I	警告を有効にした後、クライアントからサーバーへのネットワーク・トラフィックが高くなった。	MN SET クライアントから警告ステータスを有効にすると、サーバーとのトラフィックが高くなり、ユーザー・インターフェイスをナビゲートする際の全体的なパフォーマンスに影響した。
1672	B	REST API の <code>flow_to_ptp_offset</code> が常に 0 になっていた。	REST API ではフローから PTP へのオフセットが誤った値で伝えられていた。
1595	B	モニターのソース割り当てを削除した後、モニターのテキスト欄の割り当てを変更できない。論理ソースを削除すると、エラー・メッセージが表示される。	使用中の論理ソースを削除すると、不要なエラー・メッセージが発生し、別のテキスト・ソースを使用できなかった。
1477	B	セカンダリ・インターフェイスで Ctrl to SRC IP を有効にすると、セカンダリ・インターフェイス IP ではなくプライマリ・インターフェイス IP が割り当てられる。	セカンダリ・フローで Ctrl to SRC IP パラメーターを有効にすると、セカンダリ管理 IP アドレスの代わりにプライマリ管理 IP アドレスが設定された。
1694	B	保存された 4 × 4 レイアウトを再ロードすると、すべてのテキスト欄から静的テキスト・コンテンツが欠落する。	16 PIP のレイアウトをロードした際、静的テキストが再適用されなかった。
1593	B	アプリで SD 解像度を選択できなかった。	ST2022-6 アプリを用いる SD 解像度が選択できなかった。

番号	内容	機能 / バグ	機能
1660, 1631, 1636, 1686	B	PAN B の Port タブで、ファームウェア切り替え後の情報更新に時間がかかる。	PAN B の Port タブ ：ユーザー・インターフェイスで複数の更新の問題が解決され、インターフェイスがすべての条件下で正確になった。
1666	B	発見されたデバイスが、以前に使用されたプリセットのデバイスを表示していた。	PAN A のデバイス一覧には、以前のディスカバリーからオフラインのデバイスが表示される。
1606	B	スイッチの MAC アドレスがデバイスに表示されなかった。	Array タブでスイッチの MAC アドレスがデバイス一覧に表示されなかった。
1517	B	MN SET はアップグレード後もディスカバリー範囲を記憶する。	新しいバージョンにアップグレードすると、ディスカバリー範囲が保存されなかった。
1642	B	特定の特殊文字を含む名前のマルチビューワー・プリセットを削除できない。	マルチビューワー・アプリ：特殊文字を使用すると、レイアウト・テンプレートを削除できなかった。
1135	B	複数デバイス・タイプのアレーをエクスポートすると、アレー間で mib ファイルの内容が混在することがある。	Arrays MIB をエクスポートすると、アレー・タイプのデバイスのタグ付けが不正確に行われていた。
1829, 1833	B	必要なポートの排他性に関するインストール・エラー警告の改善。	Linux では MN SET は以下のポートを使用できるようにする必要がある：8080 (MN SET Web), 9080 (MN SET NB API), 27017 (MongoDB)。これらのポートが別の処理によって使われている場合、インストール・エラー・メッセージが表示されるようになった。
1541	B	MV 1.0 ——アラーム・ソース名欄で無効な文字が使用できる。	無効な文字 (&#\$#@ やスペースなど) がアラーム・ソース名に使われている場合、名前が無効であることを知らせる警告は表示されないが、バックグラウンドでデバイスは正しく設定されない。アラーム・ソース名には英数字のみを使用する必要がある。現在、名前に英数字以外は - と _ しか使用できない。
1599	B	——	MV 1.0 ——バーチャル・デバイスをルーティングの論理ソースとして使用できない。
1713	B	——	ギア設定ボタン  がアクティブでない。
1708	B	——	マルチビューワーを使用しているとき、静的テキスト・エディター・テーブルは、入力中や別の行に変更するときに、デバイスにテキストの変更を適用しない。<Enter> を押すことによるのみ、現在の行に変更が反映される。
1705	B	——	マルチビューワーを使用しているとき、 Text Fields タブでマルチビューワー・デバイスを選択できない。
1676	B	——	Frame Sync ライセンスがない場合、 Reference タブからビデオとオーディオのアライメント・オフセットを設定することはできない。
1787	B	マルチビューワーのテキスト・ビデオ・ソース名とラベルが Not assigned と表示される。	ビデオ・ソース名 (ラベル) は、フロー名 (ラベル) に基づいてテキスト欄に表示される。
1603	B	マルチビューワーのテキストボックスでは非アスキー文字が受け付けられる。	MV 1.0 ——非アスキー文字は MN SET では受け入れられるが、デバイスでは拒否される。

リリース・バージョン 5.20 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能 / バグ	解説
—	F	マルチビューワー・アプリのサポート.	ビデオ・モザイクの 4 × 1, 9 × 1, 16 × 1 IP to IP セットを含む新しいマルチビューワー・アプリ.
1356	F	ST2110 UHD ゲートウェイ・バージョン 4.0 のサポート.	アプリ・バージョン 4.0 には次のような新しいパラメーターと改良が含まれる: SFP I/O タイプのレポート, RS-FEC 設定, エンカプスレーター上の柔軟な音声マッピング.
1363	I	J2K アプリ: 圧縮プロフィール.	J2K の品質プロフィールの選択制御を追加.
1359	I	SFP I/O の検出.	FusioN 3B/6B (ST2110 ゲートウェイ・アプリ) に挿入された SFP I/O のタイプをレポートする.
1344	I	並べ替え / フィルターの改善.	最後の GUI ページに戻ったときに, 最後のフィルタリングおよびソート設定を維持する.
1209	I	Logicals の簡素化.	マルチビューワー・アプリに適合するように Logicals を簡素化した.
1012, 1010, 1018	I	NMOS コンフィギュレーションのサポート.	NMOS 固有の設定パラメーターを含む新しいセクション.
835	B	オーディオ・マッピング——デバイスタグ検索が機能しない.	Audio Mapping タブで, 検索バーが表示された情報に対してのみ機能し, デバイス・タグに対しては機能しない.
858	B	複数のタイプを含む MiB ファイル.	MiB ファイルを作成する際, 1 つのデバイスタイプのみを含むこと.
892	B	MN SET のリストア——確認不要.	Restore ボタンを使用して, 最後に保存された MN SET 設定をインポートする場合, ユーザーに確認を求めることなくリストアが即座に実行される. 使用には注意が必要.
1119	B	FusioN-6-B —— Clean switch now ボタンはチャンネル 1 と 2 でのみ動作する.	他のチャンネルはエラーになり, クリーン・スイッチは実行されないため, 代わりにディレイ・スイッチを使用する必要がある.
1180	B	まれに, 一括編集ですべてのデバイスに設定が適用されない.	多数のデバイスを選択した場合, 一括編集機能が一貫して機能しなかった.
1320, 1321	B	Array タブ: フィルターおよびソート機能が Switch 欄で正しく機能しなかった.	—
1659	B	J2K アプリ: 誤った警告メッセージ.	フローを更新すると, 失敗メッセージが返された.
1159	B	REST タブで JPEG-2000 エンコーダー・ストリームの設定に「out of range」という不明な失敗メッセージが表示される.	REST タブを使って mpeg2ts/stream の下で JPEG-2000 エンコーダーに無効な値を設定すると, 表示されるエラー・メッセージが不明確になる. この場合, 編集可能な欄で使用されている値がすべて有効であることの再確認が必要. この場合, パラメーターの設定は変更されない.
1171	B	論理デスティネーション——デバイスまたはフロー名が変更されると, 新しい宛先が作成される.	論理デスティネーションは使用可能なデスティネーション・フローに関連付けられているため, 編集または削除ができない. ただし, 回避策として, 元のデスティネーション・デバイスまたはフローの名前が変更されたときに作成される重複した論理デスティネーションを削除できる.
1177	B	リストア機能——無効なファイルを使用するとすべてのユーザー権限が削除される.	保存済み設定データを MN SET のリストア機能を使ってインポートする際, リストアに使用したファイルが無効な場合 (mib, .txt, .zip, .docs のいずれかのタイプ), 既存のユーザー・アカウントはすべて削除され, 管理者ユーザー権限は読み取り専用に変更される. 回避策として, MN SET をアンインストールして再インストールする必要がある.
1178	B	「add on」ライセンスの更新メッセージがタブを変更するまで表示される.	「add on」ライセンスでデバイスにライセンスを付与した後, 別のデバイスを選択しても, 別のタブに移動するまで「Update successful」というメッセージが表示されたままになる.
1198	B	警告機能がパフォーマンスの問題を引き起こす.	メイン・メニューから「Warning」機能を使用すると, 特に大量のデバイス (40 以上) が検出された場合に, CPU のパフォーマンスに大きな影響を与える.
1094	B	エンコーダーの有効ビット・レートが圧縮率の設定に比べて低い.	圧縮するコンテンツに基づいて, エンコーダーは, 使用するビット・レートを表す設定済み圧縮率 (Configure/Signals/Programs/Video bitrate) よりもはるかに低い有効ビット・レート (Monitor/Signals/Output/Bitrate の下にある) を使用できる.
1162	B	MN SET の再インストール後に表示されるデバイスのリストが無効.	MN SET を再インストールして初めて使用する場合, Devices/list に表示されるデバイスのリストに, 以前のインストールのデバイスが表示されることがある. 別のページに移動してから戻ること, リストをクリアして実際の正しいリストを表示できる.
1166	B	バーチャル・デバイス——複数バーチャル・デバイスを削除対象として選んでも削除されるのは 1 つだけ.	複数の仮想デバイスを選択して DELETE ボタンを使用すると, 「success」メッセージが表示されても最初のデバイスだけが実際に削除される. 回避策としては, とりあえず 1 つずつ削除する.

番号	分類	機能 / バグ	解説
1638, 1645, 1647, 1648	B	2110 UHD ゲートウェイ v4.0 —— FusioN ポート使用状況の表示更新の問題.	IO SFP の挿入 / 除去後, アプリの変更後, またはアドオン機能の有効化 / 無効化後, ポート使用状況の更新に数分かかることがある. 他のタブに移動して状態を更新すること.

リリース・バージョン 5.12 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能 / バグ	解説
1548	I	Log4j ライブラリの脆弱性の問題 (Log4J 2.17.1)	脆弱性の修正 https://nvd.nist.gov/vuln/detail/CVE-2021-44832 https://nvd.nist.gov/vuln/detail/CVE-2021-45046 https://nvd.nist.gov/vuln/detail/CVE-2021-45105

リリース・バージョン 5.11 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能 / バグ	解説
1518	I	Log4j ライブラリの脆弱性の問題 (Log4J 2.15.0)	脆弱性の修正： https://nvd.nist.gov/vuln/detail/CVE-2021-44228

リリース・バージョン 5.10 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能 / バグ	解説
908	F	全プラットフォームでの JPEG-2000 アプリのサポート (デバイスと信号のリスト).	JPEG-2000 アプリを実行しているデバイスとその信号が表示される (信号エッセンス = MPEG-TS 用の JPEG-2000).
915	F	デバイスは JPEG-2000 アプリおよびアドオンのアップロード, 実行, 削除が可能.	JPEG-2000 アプリはアップロード, 実行, 削除, デフォルトとしての設定が可能. JPEG-2000 エンコーダーはクリーン・スイッチ・アドオンを使用可能.
894	F	JPEG-2000 信号設定のサポート.	(エンコーダ) SDI または ST2110 の入力を選択し, MPEGTS 出力フローをユニキャストまたはマルチキャスト・アドレッシングで設定可能.
887	F	JPEG-2000 FusioN のデータ・ポートの設定.	FusioN のデータ・ポートに使われる IO SFP を設定し, 呼び出すことができる. エンコーダーは入力 1 または入力 2 に固定されている. デコーダーは出力 1 または出力 2 に固定されている.
882	F	JPEG-2000 受信バッファ設定 (デコーダー).	ネットワーク・クラスとジッターに基づいて受信バッファ設定を指定できる.
900	F	ST2110 入力アライメント用 JPEG-2000 設定 (エンコーダー).	受信した ST2110 フロー (エンコーダーの入力として使用) の標準リファレンス構成をサポートする.
901, 920	F	JPEG-2000 の監視——汎用および特定データ.	デバイスの標準的な MN IP 監視情報を表示する. SDI 信号と ST2110 信号の両方について, Signals タブに JPEG-2000 固有の監視情報を表示する.
1170	F	ダイレクト REST API コマンドを使用した JPEG-2000 設定.	JPEG-2000 アプリの RESTful API ツリーで get と set を直接使用できるようにする.
1054	I	識別し易いようにデバイス・リストと csv のアプリ名を変更.	リスト内のアプリ名は, アプリ製品名と一致する. 接尾辞を用いてアプリのハードウェア・プラットフォームを指定 (M = MuoN, F = FusioN, A は「-A」, B は「-B」).
881, 871, 176, 191, 950, 1117	B	CSV インポート / エクスポートを改善して信頼性を向上.	複数フローを持つ複数デバイスのインポートに対応. <ul style="list-style-type: none"> • オーディオ・マッピングに対応. • NMOS フローに対応. • JPEG-2000 設定に対応.
869, 1155	B	CSV インポート / エクスポート機能の信頼性を向上.	再インストールまたは設定のクリア後の MN SET の設定に復元ファイルを使用できるようになり, 復元結果の信頼性が向上した.
896	B	JPEGXS アプリでポート設定ができる.	JPEGXS アプリを実行している FusioN デバイスのポート設定は, 編集不可能になるように停止された.
897	B	REST API タブ——長いパラメーターが正しく表示されない.	REST API タブで, 長いパラメーターが 2 行で表示され, 完全なパラメーター名を確認できるようになった.
1000	B	MuoN-B 用 2110 4K アプリのオーディオ・マッピングが機能しない.	MuoN-Bx 上で動作する ST2110 4K アプリのオーディオ・マッピングが利用可能になり, 動作するようになった.
1108	B	ST2110 4K —— 4K フォーマットがリスト表示されない.	ST2110 4K アプリを使用する際, エンカプスレーターのモニターに検出された 4K フォーマットが表示されるようになった. ST2110 4K アプリを使用する際, デエンカプスレーター設定が可能な 4K フォーマットを一覧表示するようになった.
1111	B	2110 4K —— デバイスの VLAN および DHCP 設定が保存されない.	ST2110 4K —— デバイスの設定で, VLAN と DHCP 設定がデバイスに正しく書き込まれず, 変更されなかった.
1112	B	バーチャル・デバイスのルーティングでセカンダリ・フローが設定されない.	バーチャル・デバイスからレシーバーへのルートを作成する際, セカンダリ・フローが有効になっていても, プライマリ・フローのみがルーティングされていた. 現在は両方が同時にルーティングされる.
1121	B	オーディオ・フローの pTime 設定 —— 500 μs が常に使用可能とは限らない.	一部の ST2110-30 フローでは, pTime 設定に 500 μs オプションがなかった. 現在, すべての ST2110-30 フローで設定リストにこのオプションがある.
1125, 1126, 1131 / 1140 - 1144, 1154	B	一括編集 —— 複数のバグ.	警告の処理とグレーゾーンを修正. <ul style="list-style-type: none"> • プライマリおよびセカンダリ・フローの有効化 / 無効化をサポート. • RTP タイプと Ctrl to Src パラメーター設定をサポート. • Flows タブの全パラメーターではなく, 変更されたパラメーターのみを更新するようになった.

番号	分類	機能 / バグ	解説
1128	B	編集モードでビデオとオーディオのルーティング・タブを切り替えると GUI がフリーズする.	編集モードで、フリーズしたり編集を妨げたりすることなく、ビデオとオーディオのルーティング・タブ間を移動できるようになった.
1139	B	ST2110 4K ——パッケージのインストール時に表示されるエラー.	デバイスのアップグレードに時間がかかることがあり、このエラーが発生することがあった. デバイスへのパッケージのアップロードが成功すると Success メッセージが表示されるようになった.
1160	B	ルーティング・タブで、フレーム・シンクやクリーン・スイッチを有効 / 無効にできない.	フレーム・シンクまたはクリーン・スイッチの有効なライセンスがあっても、ルーティング・タブがアクティブな場合、これらのアドオンを有効にできなかった.

リリース・バージョン 5.00 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能	解説
58	F	ST2110-SDI ゲートウェイ v3.5 のオーディオ・マッピング機能強化をサポート。	ST2110 HD/3G ゲートウェイ・アプリがアップデートされ、音声マッピングの柔軟性が向上した。MN SET は V3.5 およびそれ以前のバージョンの音声マッピングをサポートする。
843, 829, 784, 21, 199, 58	F	JPEG-XS エンコーダー / デコーダー・アプリのサポート。	MNSET は MuoN B25, FusioN 3 B10, FusioN 6 B10 の各プラットフォームすべての JPEG-XS アプリをサポートするようになった。
565, 785, 470, 509	B	FusioN 3B と 6B のポート設定が明確でなかった。	SFP イメージの正確なフィードバックと SFP 選択の明確化することで、ポート設定のユーザー・インターフェイスが明確になるように修正。
211, 208, 835	B	以前のバージョン 4.30 では、Device タグと Flow グラフが壊れていた。	タグの使用を修正することで、ユーザー・インターフェイス内でデバイスとフローをグループ化し、検索し易くした。
777	B	SNMP MIB ファイルが正確ではなかった。	MIB ファイルを MIB ビューワーにインポートする際、ST2022 のコンテナ ID が ST2110 タイプのフローに適用されていた。
212	B	デエンカプスレーターのフォーマット・セレクターで UHD フォーマットが表示される。	ST2110 HD/3G デエンカプスレーターでフォーマットの手動設定を使用する際、デバイスがサポートしない追加の UHD フォーマットがフォーマットのリストに含まれていた。
467	F	SDI 出力における信号の損失動作 (黒, フリーズ, 青, 信号なし)。	SDI 出力を提供するデバイスは入力信号が失われたときにブラック, フリーズ, ブルー, または無信号のいずれかを生成するように設定できる。
202	B	アドオン・ライセンスの構成がクリアされない。	アドオン・ライセンスの有効 / 無効のステータスが更新されなかった。新しいインターフェイスは、有効または無効の場合、緑または赤で表示されるようになった。
460	B	デバイス・リストとフロー・リストを切り替えると、長い待ち時間が発生する。	アプリに検出したフローのリストが長い場合、デバイス・リストとフロー・リストの表示切り替えに 3 ~ 10 秒かかっていた。現在はすぐにページが切り替わり、進行状況を確認できる。
852	B	警告フラグを解除できない。	MN SET のリスト・ビューですべてのエラー・フラグのチェックを外す際に、フラグが解除されなかった。
21, 200, 203	F	バーチャル・デバイスでの問題。	バーチャル・デバイスの作成において適用できないデバイスがあった。また、受信フローのフォーマットを設定できない場合があった。さらに名前の変更もできなかった。この問題は修正され、JPEG-XS デバイスが含まれるようになった。
824	B	View only 権限のみを使用しても、オーディオ・マッピングの編集が可能だった。	View 権限を選択した場合、オーディオ・マッピングを編集できなくなった。
826	B	Upgrade 権限を期待して View only 権限を付与した場合に GUI が重複する問題。	ユーザが View only 権限でアクセスした場合、ユーザー・インターフェイスが重複せず、Upgrade ページが利用できるように修正された。この場合、アップグレードにはアクセスできない。
874	B	User/Role 権限が正しく管理されなかった。	割り当てられたロールでユーザーを設定する場合、パーミッションが必ずしも正しく管理されていなかった。

リリース・バージョン 4.30 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能	解説
720	F	新規の改良されたオーディオ・マッピング・ユーザー・インターフェイス.	フロー数, 音声チャンネル数, マッピング転送機能など, 各製品の特性をサポートし, さまざまな製品のオーディオ・マッピングの設定を容易にする新しいワークフロー. このインターフェイスは, インターフェイスの PAN A で使用する. PAN B のインターフェイスは廃止されてインターフェイスから削除された.
—	F	ST2110 HD/3G ゲートウェイ・バージョン 3.6 のオーディオ・マッピングのサポート.	バージョン 3.6 では, エンカプスレーターのオーディオ・マッピングが改善され, オーディオ・チャンネルを繰り返し使用したり, チャンネルを任意のフローに何度でも自由にマッピングできるようになった.
652	B	FusioN 6 のオーディオ・マッピングが適切に管理されていなかった.	FusioN 6 のオーディオ・マッピングを新しいオーディオ・マッピング機能で修正した.
695-737	B	.cvs ファイルのインポート / エクスポート時の問題.	最近のアプリに対応した .cvs ファイルへのインポート / エクスポートに関する様々な問題を解決した.
746	B	クリーン・スイッチの問題.	クリーン・スイッチング・モードがアプリから正しく実行されなかった.
744	B	管理 IP 設定の構成.	デバイスの様々な管理 IP アドレス・パラメーターを設定する際, 管理 IP アドレスだけが送信された.
707	F	パケット間隔時間の監視.	監視インターフェイスにパケット間隔時間の監視を追加した.
727	B	バックアップ機能使用時の問題.	バックアップ・リカバリーを実行する際, アプリが無限ループに入ることがあった.
736	F	SNMP トラップ・レシーバー IP アドレスの設定が可能.	以前のバージョンでは固定 IP アドレスでのみ SNMP トラップを受信できた. 現在はこれが設定可能になっている.
712	B	MN SET を使用したパフォーマンス上の重大な問題.	本ソフトウェアはパフォーマンスに問題があり, CPU から重要なメモリとコンピュータ・リソースを使用していた. このバージョンはこれを大幅に改善した.
666	F	SST2110 UHD ゲートウェイの新機能のサポート.	UHD ゲートウェイのバージョン 3.1 で提供される新機能がインターフェイスに追加された.
677	F	FusioN 3B および FusioN-6B の論理ルーティング.	論理ルーティングが FusioN-3-B と Fusion-6-B でサポートされた.
592	F	アプリのデータ復旧.	アップグレード処理を通じて, アプリのデータのバックアップとリカバリーを可能にする.

リリース・バージョン 4.20 ソフトウェア

内容：機能 (F), 改善 (I), バグ修正 (B)

番号	分類	機能	解説
668	F	インターフェイスを RIEDEL にブランド変更.	Embrionix emSET ソフトウェアは RIEDEL MN SET にブランド変更された.
666	F	UHD ゲートウェイ・バージョン 3.00 のサポート.	ST2110 MuoN, FusioN ゲートウェイ・バージョン 3.00 に対応.
667	F	新機能バージョン 3.20 HD/3G ゲートウェイをサポート.	
500	F	アップ/ダウン/クロス・コンバーターのサポート.	UDC アプリを用いた MuoN B25.
585	F	データベースの使用.	このソフトウェアはストレージ・メカニズムをフラット・ファイル戦略から完全な MangoDB データベースへと変更した. これによって性能と効率が向上する.
611	F	デュアル MAC 機能のサポート	FusioN-3 + FusioN-6 + MuoN B シリーズのセカンダリ管理 IP アドレス.
591	F	クワッドリンク設定メニューの改善.	
576	F	Setup/Monitor ボタンの改善.	
493	B	CPU パフォーマンス.	Windows で動作するアプリケーションのパフォーマンスの問題を改善 / 修正した.
619	B	クリーン・スイッチングがクリーンではなかった.	
613	B	クリーン・スイッチングがチャンネル 2 で動作していなかった.	
601	B	リファレンス設定.	FusioN-6 でリファレンス設定が使えなかった.
646	B	REST ページの PTP 設定が利用できなかった.	UUID が API ツリーでさらに下に進むボタンとして表示されないため, PTP を設定できない.
423	B	MIB の準備ができるまで進行中 / 読み込み中のバーが表示される.	
566	B	フレーム・シンクとクリーン・スイッチ・アドオン.	この機能がライセンスされていない場合はグレーアウトされるようになった.
563	B	静的ロケーションの FusioN-6 が利用できなかった.	
522	B	プログラムのデフォルトが機能しなかった.	
542	B	設定データ (TAG や Logical など) が保存されなかった.	
629	B	ST2022-6 アプリのサポートの修正.	特定のシステムで 4.0 または 4.1 の 2022 デバイスを制御できない.
650	B	MN SET アップグレード後にログイン・ページが点滅する.	
618	B	PTP タブ経由で FusioN-3 のデバイスまたは位置情報タブにアクセスできない.	